

バーチャル雪まつり 1998 & デジタル雪まつり新聞

事務局 青柳

今年で3回目を迎える「バーチャル雪まつり (VSF)」。昨年夏ころから準備を続けてきましたが、まさにいま佳境を迎えています。

まだ知らない方のために少しだけ説明しますと、「バーチャル雪まつり」はインターネット上で全国の生徒たちがさっぽろ雪まつりの市民雪像案を話し合い、実際に雪まつり期間中に大通公園会場の市民雪像コーナーで制作するというものです。制作は北海道の生徒が中心になって行いますが、運良く制作期間中に札幌まで来れる道外の生徒は、一緒に雪と戯れながら生まれて初めての雪像作りを体験するというものです。昨年からは雪まつり実行委員会の公式行事の一つに加わりました。また、HBCさんの協力により、大通7丁目のHBC広場の一角をお借りして、HBCのホームページにVSFライブ中継もしていただいています。

今年のVSFは、昨年までのホームページ上だけのアイデア交換から、インターネットを使えない子供達も参加できるように、FAXでアイデアを出したり、逆にいまどんな案が出ているのかをFAXで引き出したりもできるようになりました。この仕組みは、NTTおよびNTTテレマートさんのご協力で実現したものです。

こうして今年もたくさんのアイデアがいろんな方法で出され、今日(1/28)中には最終案が決まりそうな状況です。最終案を決めるプロセスも、子供同士で話し合い、発想として面白いもの、デザインがすばらしいもの、そして雪で作ることが可能か、といったことを考えながら、上手に決めていっている様子です。たくさんの意見をまとめていくこの過程自体も、雪像を作ること以上に体験してほしい部分です。



ほぼ決まりかけの雪像案。1/28現在多分これでいく、のかな？

制作は、1月30日から2月3日までの予定で行われます。とはいえ、学校は平日は休みではないので、あいだの土日が勝負になります。今年は31日と1日ですが、このたいへんな両日に、実は今回の目玉であるTV会議もするのです。これまたNTTさんの協

力でTV会議システム「フェニックス」を使って、31日は昼過ぎから道内外の学校と、1日は午前10時からロサンゼルス日本人学校と交流します。お時間のある方は、ぜひ会場に来ていただいて参加して下さい。また、同時にCU-SeeMeによる交流も行いますので、遠隔からの参加も歓迎です(下記参照)。

制作に参加する学校は、道内から札幌の新川高、幌東中、北野台中、発寒中、福井野中、啓明中、開成小、アトリエアイリス、千歳青葉中。そして道外からは昨年に続いて神奈川大附属・高等学校と初めての横浜大谷台小が参加します。他の学校の面識のない生徒と一緒に一つの雪像を制作する、これぞVSFのいちばん目指すところなのです。参加した生徒みんながそれぞれの収穫を得てくれるように願います。

さらに盛りだくさんな今年の雪まつりは、VSFや国際雪像コンクールを中心に「デジタル雪まつり新聞」も発行します。ACEの「デジタル学校新聞プロジェクト」の今年度の集大成として、このプロジェクト発足のきっかけとなった札幌星園高と、昨年のPOEMでデジタル新聞発行の主役だった道都短大の生徒・学生が協力、強力なデジタル新聞編集部が誕生しました。期間中2月3日から11日まで、DTPによる雪まつり速報新聞を制作、大通6丁目の市民案内所にて配布します。またこれをPDFファイルにして雪まつり公式ホームページで公開します。世界有数のイベントで初めて発行される速報新聞を担う彼らの活躍にご期待ください。

意外と知られていないことですが、来年50回をという歴史を持つさっぽろ雪まつりは、かつて札幌市内の中高生が学校行事の一環として大通公園で雪像作りをしたのが始まりなのです(ハイパー風土記・オロパスをご覧ください)。バーチャル雪まつりは、「市民が参加する市民のための雪まつり」という原点に立ち返るきっかけになるものでもあるのです。

(関連 URL)

VSF1998 ホームページ

<http://www.miceng.co.jp/VSF1998/>

デジタル雪まつり新聞

<http://www.aurora-net.or.jp/doshin/group/ACE/VSF/>

さっぽろ雪まつり公式ホームページ

<http://www.aurora-net.or.jp/snowfes/>

(1/31、2/1のCU-SeeMe参加方法)

コーネル大のフリー版ソフトを用意し、リフレクタアドレスを202.221.254.11にして下さい。カンファレンスIDはなんでも結構です。フリーは次のところでダウンロードできます。ftp://gated.cornell.edu/pub/video/html/Welcom.html#GET

付記

事務局 吉田

不肖吉田、デジタル雪まつり新聞の編集長を仰せつかりました。先日編集員の学生達と顔合わせをしましたが、真剣なまなざしにこちらが圧倒されます。雪まつりの雰囲気をはにかき臨場感溢れる形で伝えることができるか、頑張りどころだと思っています。

2月3日から11日まで、道新情報開発本部で編集作業をすすめています。雪像製作同様、差し入れ冷やかし第歓迎です。よろしく願いいたします。

あたらしいメディアの 教育活用研究会

～ 人々ネットワーク大作戦～

- 新しいメディアを活用した開かれた学びの場の構築について -
尾崎 廉

北海道において、インターネットなどの新しいメディアを教育に活用するために各地域の様々な活動団体や個人で活動をしている教育関係者の人的ネットワークをつくり、情報交換を行うとともに、技術的、教育的な問題を解決することを目的として、平成9年12月26日(金)午前10:00から札幌市立北野台中学校を会場に上記研究会が開催されました。



年の瀬だというのにこの熱気。

当日北海道各地の小、中、高の教員やNTTの方々が26名ほど集まりました。午前9時に学校に行き、配線の準備をしていましたが、線が短く苦労していたのですが、なぜか千歳祝梅小学校@半澤先生が10base-Tのケーブルを箱ごとをもって登場しました。すぐにケーブル作りの講習会が始まり、あっという間に100mのケーブルが完成し、準備は整いました。いつもタイミング良く助っ人にきてくれる不思議な先生です。研修は我がACE北海道支部長の武田先生が司会進行をつとめます。参加者が、自己紹介を兼ねて自分たちの学校の情報教育の環境について話をしていきます。この日初めて参加した方もいたのですが、段々顔見知りの方が増えていきます。その後、大成高校@入澤先生が学校のホームページを説明しながら、町教育委員会との関係や施設設備についての話を進めていくと一部からはうらやましーとかの音が、町をあげてネットワークを利用した教育に取り組む姿が見えたような気がしました。そのあと、東鷹栖中@大阪先生が、社会科の授業で活用できる時差を調べる東鷹栖中ホームページの中のWebを使いながら説明をしてくださりました。参加者からは質問や意見がどんどん飛び出します。

情報教育についての考え方やインターネットについて現状などそれぞれの環境や状況が出てきたり、授業での実践例や可能性について、また、いろいろな地域の学校の実状や悩みなどがどんどん出てきました。その後話は個人情報公開と著作権について札幌市の動きについて意見交換しました。参考に原村立原中学校のインターネット利用規定を参考にしながら、今後の課題などについて活発で発展的な意見が出てきました。近くファミリーレストランで昼食をとっている間も話がどんどん進むという全身これす

べて研修会状態でした。午後からも学校のホームページに対する行政からの指導についてははじめ盛りだくさんな濃い内容の話が続きました。

最後に北野台中学校のネットワーク環境を事例として、学校教育に有効な教育情報環境としての、少数台数のネットワーク環境の仕掛けと仕組みについてダイアルアップルータ～LANまで実際に見ながら、学校でのインターネットへの接続の工夫方法について話あいました。あっという間に時間が過ぎ、第1部は終了しました。その後、札幌市のネットワークプラザを見学のあと、懇親会はいつもの「みのや」で15名参加で行われました。20:30解散予定だったのですが、話が弾み噂によると日本酒「磯自慢」3升を飲み干し、中には延々と15時間研修していた参加者もいたらしいということです。

第2回目の技術講習会NTサーバーの構築のダイアルアップルータの設定<北海道こねっとプラン主催>研修会にも、4講座で16名という参加者を迎え1月13日(火)、14日(水)に札幌市ネットワークプラザ 技術的な面での講習と懇親を深める研修会を行います。内容は授業で使えるネットワーク環境の構築と教室内で体験するイントラ環境の設定などを行ないました。今回は、最初にNTTの新関さんが講師となり、4人の受講者の講習を行い、次のコマは受講者が次の受講者に技を伝達するという画期的な伝言リレー方式がとられました。今回は顔見知りも増え、和気藹々としかし、真剣な眼差しで、NTサーバの構築を行いました。受講者は子供たちが使える学校の環境を構築しようと、熱心に作業を続け、中には研修会終了後学校のパソコンにNTサーバを構築してしまった人もいたようです。2日とも熱気あふれる講習会でしたが、今後もNTTの協力で長期休業中にこの方式の



午前の生徒が午後は講師。しんどい講習会だ。

研修会が開催される予定です。ぜひ参加ください。なお、14日の深夜、この講座に協力した3名がすすきで暴れている某お方をなだめながら顔に引っかき傷をついたり、タクシーに乗せようと努力している姿が目撃されていたようです。パワフルなACE北海道の研修会はこれからも発展し続いていくのであります。ちゃんちゃん。

いよいよ！ MacWorldEXPO & ACE 全国総会

事務局 吉田

そろそろMac World EXPOの季節ですね、皆さん。ちゃんとお金は貯めてますか？さて、エキスポといえば並行して開催されるのがACE全国総会。総会は下記の通り開催されます。

~~~~~

場 所 ホテルグリーンタワー幕張

日 時 1998年2月21日(土)

幹事会 16:00 ~ 17:00 / 武田・青柳・荒島 が出席

総 会 18:00 ~ 19:00 / 全員出席

懇親会 19:00 ~ 21:00 / 全員出席

懇親会はIDGとの共同開催ではなくACE単独での開催になります。

總會

司会 西澤 (ACE 関東)

1. 開会あいさつ (5分) 渡辺会長

2. 總會成立の確認 (5分) 議長

3. 1997年度報告 (15分) 幹事会... 矢野事務局長

活動報告, 決算

4. 役員改選 (10分) 議長

立候補の紹介

5. 新役員紹介 (10分) 新広報渉外担当幹事

6. 新役員代表あいさつ (5分) 新会長

7. 1998年度計画 (15分) 新幹事会

活動計画, 予算

懇親会

司会 これは清水先生じゃないでしょうか?

1. 来賓あいさつ

2. 乾杯

[[[ 歓談 ]]]

3. 支部アピール -97

報告 & 98計画 - (各  
10分)

・バーチャル雪まつり / ACE 北海道...  
武田 & 水越先生で  
どうでしょう?

・支部新設-この1年  
/ ACE 東北

・ACE環境調査プロ  
ジェクト, Mac  
World Expo / ACE  
関東

・ACE-NET, ACE  
ホームページ /  
ACE 上越, 北陸

・97POEM, タイ国交流プロジェクト, Mac Fan Expo / ACE 関西

・97miniPOEM, 98POEM / ACE 九州

4. アトラクション (15分) 本部事務局

アイデア募集

5. 賛助会員紹介 (10分) 広報渉外担当幹事

6. 賛助会員代表挨拶 (5分)?

~~~~~

また、今回はエキスポの中でACEブースが登場、Mac Fan EXPOの熱気を幕張でも再現します。

~~~~~

ExpoACE ブース (Expo 会場内)

2コマのブースになります。1コマ 3m x 3m=9m<sup>2</sup> ですから、18m<sup>2</sup>のブースです。

場所ですが、壁面をバックにした横2コマ続きの1ブースとし

て、アスキーさんとユーザーズグループの近くです。ただし、MESが半分を使うことになるかもしれません。

担当時間 / 9:00 ~ 12:00 (見込み)

司会 / 荒島・武田

北海道支部プレゼン (案)

内容: 北海道支部の取り組み / 武田

VSF'98 / 水越・(吉田・青柳)

ゼンマイ歯車 / 尾崎

COTF / 野口・由水

デジタル学校新聞 / 青柳・吉田 (ぬいぐるみつき)

人間地図 / 武田

配布物等係 / 村田 etc

この時間帯は九州支部も一緒です。この日の午後が混んでいるので上越支部もこの時間帯に移ってくるかもしれません。したがって、1支部30分で、2回公演でどうでしょうかね。

この件に関しては、ACE-Netで各支部と話し合いを進めると共に、20日(金)の夜にでも吉富先生と会って話をつめるつもりでいます。

北海道支部で必要とする機材はMacとプロジェクタとISDNを含む回線関係です。これは本部事務局&関東支部担当者に依頼します。もしだめであればMOかCD-ROMにしてホームページのデータを持ち込んでスタンドアロンでプレゼンとなります。

北海道支部の配布物は、人間地図.htmlとACE-Hokkaido NewsLetter 1月号です。

~~~~~

さらに、教育セッションとしてなんとあの、Steve Wozniakが来日、キーノートセッションが行われます。メディアキッズ? まあそう細かいことは気にしない。

~~~~~

Mac World Expo Tokyo'98 特別イベント

(2月21日(土) 国際会議場 201室)

(1) キーノートセッション (10:00 ~ 11:00) Steve Wozniak

(2) 日本の教育事例紹介-1 (11:15 ~ 12:00) 玉川学園小学部

(3) 日本の教育事例紹介-2 (12:00 ~ 14:55)

「まっちゃんに会いたい」(地域交流)

横浜市立大口台小学校 佐藤幸江

横浜市立中川西小学校 児童代表

「新発見!ぼくたちのまち」(地域とくらし)

和歌山大学付属小学校 今田 実

「バーチャル雪まつり」

神奈川大学附属中高等学校 小林 道夫

(4) パネルディスカッション (15:05 ~ 17:00)

「あと5年!すべての学校がインターネットにつながる日:学校、教師、子どもたちは.....?」

コーディネータ:

茨木大学人文学部コミュニケーション学科講師 山内祐平

パネラー:

国際大学グローバルコミュニケーションセンター 新谷 隆

神奈川県教育委員会情報教育課 中川一史

横浜市立本町小学校 出口和生

清水先生のプレゼンではできるだけ大勢で押しかけてほしいです。

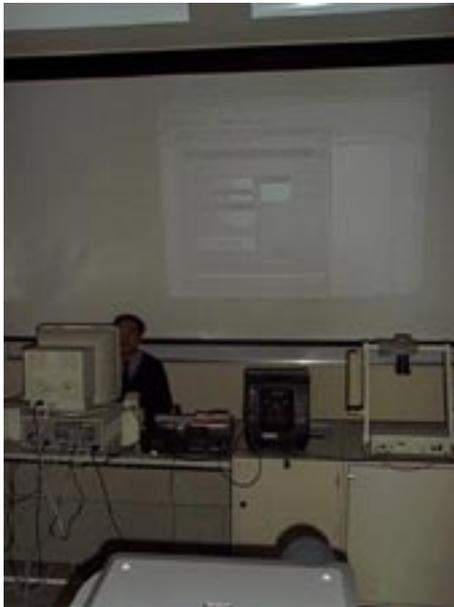
~~~~~

暗い話題の多い昨今ですが、全国を圧倒する勢いで、北海道支部の底力を見せてきましょう!

デジタル学校新聞プロジェクト - 6

「第8回高校新聞制作技術講習会」の報告

札幌星園高校 高瀬敏樹
(takase@netfarm.or.jp)



1月9日(金)札幌開成高校にて上記講習会が開催されました。全道各地から、新聞局顧問の先生を中心に20名ほどの参加がありました。午前中は「写植新聞はどのように作られるか」と題して、札幌啓成高校の加藤定明先生、秋田隆之先生、岩見沢東高校の坪川泰嗣先生による技術講習が行なわれました。午後はコンピューター室に

いやあ、一太郎って特殊なインターフェイスですね。場所を移して、「コンピュータによる新聞制作」と題した実技講習を実施しました。

昨年は北星学園女子短期大学を会場に、PageMakerを活用した新聞制作の実技講習を実施したのですが、現実にPageMakerを使用できる環境にある学校はそう多くないため、どの学校にもある、一太郎を使った新聞制作の講習を行なって欲しいという要望が多く出されました。そこで、札幌西高校の北野洋文先生が用意して下さったサンプル新聞を題材に、一太郎8を活用した実習を行なうことになったのです。さすがに一太郎は使い慣れている先生が多く、基本操作には戸惑いは少なかった様でしたが、一太郎も8にもなると機能が非常に豊富で、初めて利用する機能も多かったようです。結構複雑な縦組みも出来るのですが、ワープロソフトとしての限界や印刷に時間がかかる(レーザープリンタを利用しても、B4一面の出力に約20分!)などの使いにくさもあることがわかりましたが、手軽にデジタル学校新聞を発行するには、ワープロソフトを活用するのも悪くありません。



会場は開成高校。MMXペンティアム40台バーン。

道内では最近、網走南ヶ丘高校がPageMakerで発行を始めましたし、道外では兵庫県の明石城西高校で、2年ほど前からQuarkXPressを活用した新聞制作が行なわれています。デジタル学校新聞の輪は着実に広がっています。

ACE 北海道新年会開催!

事務局 吉田

やあー、北海道支部って忙しい割に宴会はきちっとやっているんですよ。去る1月17日、武田支部長宅でACE北海道新年会を開催させていただきました。

一人一品持ち寄りましょー、という呼びかけで集まったら見澤先生は海老チリ作ってきてくれるし、いろいろな人の手を経て幻の磯真査彦ではなくて磯自慢が届くし、盛りだくさんの宴会でした。

途中来てくださった大野さんと尾崎先生の共謀で「カレーを喰いに行く」という話が出だした頃からどうもよく覚えてなくて、マジックスパイスの激辛カレーは全然食えないし、おまけにもうろうとして気がついたら誰もいなくて、けっきょく武田先生のお宅に泊めていただいたなんて全く、この一年も酒飲みの技術を磨く年だという実感を得ました。



ひさしぶりのアナログカメラは画がよくないね。

デジテラついにオープン!

事務局 吉田

11月レターで紹介させていただきました、旭川のデジタル寺子屋「デジテラ」が去る12月21日、正式にオープンいたしました。

オープニングパーティーは北海道東海大学旭川校で行われ、旭川ケーブルテレビの取材カメラが回る中、立食で和やかに行われました。引き続き、二次会をデジテラに移して、鍋とカレジンによる盛大な宴会に移りました。この話が立ち上がった昨年の晩夏の頃、中心になって動いた松澤さんが「旭川には人がいないんだよ」とぼやいたのがうそのような人の集まりができあがっています。

今後はWebの講座や映画の鑑賞会など、映像関係の講座などを中心に様々な活動を続けていく予定だそうです。既にメーリングリストではパノラマ画像の制作のノウハウなど活発な論議が交わされています。

デジテラに関する詳細は

<http://www.kamekichi.co.jp/digiterra/index.html>

にあります。旭川近隣の方々、是非一度訪れてみてください。

激連載「インターネット表情報」

IIJ 札幌支店 田中真一

第一回テーマ： ホームページの功罪

皆さんお元気でしょうか？ IIJ（インターネットイニシアティブ）札幌支店の田中です。今月から勝手に連載始めまることにしました「インターネット表情報」です。オモテというからに軟弱な内容と想像しがちでしょうが、結構本音を厳しく言うコラム欄とします。ちまたに流れる安っぽい「ウラモノ」とは違いますのでご注意ください。

さて、記念すべき第1回（許可なく勝手に連載してる訳でもしや最終回かも）は「ホームページの功罪」という何やら怪しげなテーマとします。インターネット流行も落ち着いた気が漂う昨今ではあるが、あいも変わらず新規ホームページの開設が多い。これは以下の理由による要素が大きいと予想される。

1. ホームページ作成ソフトや素材集の使い易さが向上
2. 作成のための情報が多数の本、雑誌にて氾濫している
3. 各自治体、個人の割合が多い

一昔ならホームページを持っているだけで一種のステータスになってきましたが今では何も珍しくない程世間の常識となりつつあります。よって、何も抵抗なくワープロ感覚で作成でき、気軽に開設できるのです。ここで少し考えて頂きたい。ホームページを開設するということは、街中に自作ポスターを貼り付けるようなものです。他に貼り付けられているポスターに負けじと自ずと派手になっている傾向にもあります。

これらは果たして本来の最終目的なのでしょうか？見られたい、カウンターの数字が気になる..が常に先に優先されてしまいがちに陥ります。そのくせ内容は「シャチョーの顔写真と挨拶」「僕の日記」「風説の流布的まがいネタ」が氾濫し、見る側にとって何もメリットがないガラクタホームページがノサばっております。こんなガラクタな情報のために、通信資源が使われネットワーク混雑を招き「遅い」「面白くない」「電話料金のムダ」うんぬんと一般の方の評価となりブームも落ちてしまったのです。本来情報公開を積極的に行うはずの自治体や学校のホームページなどは、あっても「ためにならない情報の羅列」「学校のは少ない」のが現状です。もちろん努力はしているのですが、努力は当然ながらも基本姿勢が間違っていないか？といたい。

どうせ街中で張るポスターなら堂々と内容を公開して、反響を受け止める姿勢を取るべきではないか？ある自治体でこういう事例がある。

S市で開設したホームページを見て問い合わせをメールにて行った結果、返事は何日も「ない」（今もない）のです。なぜか？S市によると、質問などを出来る機能をホームページに付与したものの、返答できる「人」「組織」がなく従い返答すべきメールが山のように溜まってらしい。

何のためのホームページなのだろう？この手の勘違いは意外と多く、本当に「ポスター」にしてしまった典型的な例なのです。双方向インタラクティブ・ツールを有効利用できないのは、ひとえに「インターネット」の特長理解とその利用の体制作りが欠如しているためです。

数字（カウンタ）だけが評価判断のネタ..なんて何もホームページに限ったことではありませんが、アタマを切り替えて新しい文化に臨んでほしいものです。それと、まだ開設すらしていない企業や学校、自治体に限って「研究段階中」と言われがちです

が、やってもいないのに「研究中」もないだろ！です。この世界は常に「研究中」でありそれで実現されているのであって、研究が終わるころはきっとその人は生きてません。完璧な姿、安全性など待っていてもずーっと確立などできないのです。実行しながら不具合を直し、軌道修正しながら成長しているものです。もう既に「ホームページの功罪」など一通り経験しているので、現在開設していない方の理由として「勉強中」とか「研究段階」などはもう通用しないのです。

未開設の方は、おそれずにまずは「スタート」してみましょう。既に開設されている方は是非内容をリニューアルしましょう。

某教育委員会に捧ぐ

集まろう！話し合おう！楽しもう！ 「第5回マルチメディアバトル」 inデジタルウィーク札幌 '98

支部長 武田

下記の要領で、第5回マルチメディアバトルを開催いたします。是非会場に集まって、子供たちの活躍に声援をお願いいたします。

記

日時：1998年2月4日（水曜日）15：30から17：30まで

会場：札幌パークホテル：札幌市中央区南10条西3丁目3階エメラルド

内容：

第一部：インターネットなどを活用して、子供たちがコラボレーションアートする「バーチャル雪まつり」を、大通り7丁目とテレビ会議システムを使って紹介します。

雪祭り会場：道都大短大部経営科OA研究部、情報処理研究部学生諸君会場：水越先生と会場の子供たち

第二部：生徒たちがパソコン、インターネットを使った授業や部活動の成果を自ら発表するコンテスト。

参加校：

1. アトリエアイリス
2. 札幌市立福井野中学校マルチメディア部
3. 札幌市立北野台中学校
4. 北海道大成高等学校
5. 北星学園女子短期大学生活教養学科生活情報コース

付記

レターに同封いたしましたデジタルウィーク札幌のリーフレットを御覧戴いた上、ぜひ御来場ください。マイクロソフト株式会社古川会長の超早口トークとかShockWave使いの大重 美幸さんのお話などを聞きたい方、ぜひパークホテルに集結して下さい。

エレセンまつりもわずれないでね。

編集後記

いやいやいや、はっはっは。去年の12月からレターは8600/250メモリ160MBという恵まれた環境で制作しています。私が使った中では最大最速のマックです。でも、マシンが早くなっても帰る時間は相変わらず遅いのね。雪まつり新聞の打ち合わせのときに話をしていた「DTPだと組むのは早い。用は何を取材し何を書くのかにかかっている」という部分を肌身で感じてしまったわけです。この環境で雪まつり新聞も怒とうのように編集します。御期待ください。

(吉田)

新しい年を迎え、予定通り、雪がどんどん増えてきて北国らしい風景になりました。冬休みは、無事に2回の研修会を開催でき得る物が多かったと感じます。参加くださった皆さんお疲れさまでした。また、語り合ひましょう。やりたいことが有りすぎてあっぱあっぱしていますが、さらにエネルギーを蓄え今年も爆発していきたいと思います。ご迷惑をおかけするみなさまに最初に「申し訳ない」といっておきます。いよいよ気合いを入れてネットワークづくりをすすめていきましょう。(尾崎)

新しい1年が始まったと思ったらもう目の前は2月です。今年もよろしくお祈りします。

最近、自分の研究室のホームページをリニューアルしようと思ってPhotoshopをごちゃごちゃといじっています。これがおもしろいのです。適当に書いた絵も、ぼかせばそれなりにテクスチャになりますし、写真を合成してスポットライト効果でも付ければ一丁前のバックグラウンドができます。で、そんなことやっているうちに、こうやって考えてるのが楽しいんだってことに気づくわけです。でも、誰もが同じではないんだろうなとも思うわけです。さらに、こんなことできるなんて思っていない人がたくさんいるんだろうなとも思うのです。そして最後に「自分が楽しいことはやはり教えてあげよう」と思うのです。これって子供の気持ちじゃあないか。今年も楽しくやるぞお。

(野口)

今月はワープロソフトを使って、複雑な縦組みレイアウトに挑戦してみました。結果、できるという事と、使えるという事の大きな違いが身にしました。(高瀬)

日曜日、社内卓球大会に出場しました。1年に一度の大会なのですが、1年に一度しか卓球をしないので、土曜日に区民センターに練習に行きました。その日は大ホールが卓球解放の日だったのですが、数十人の市民が卓球台を奪い合うようにして卓球にいそしんでいました。こんなにも日本の卓球人口は多かったのか...とよく見ると、50代以上と見受けられる世代のひとばかりなのでした。そういえば社内大会でもいつもおじさんに負けるよな。そうかその時代は卓球が日本ではポピュラーなスポーツだったのか、じゃあ、学校開放ではバドミントンやバレーじゃなくて、卓球解放してその中に子供も入っていけばいいんだ、そして卓球をしながらおじさんおばさんと一緒に汗を流して、世代の交流ができれば、これぞコミュニティに開かれた学校の理想型だ...などと考えているうちに今年の卓球大会はブービーでした。来年はもっとうまくなろうっと。(青柳)

札幌音楽専門学院の見澤です。

みなさん新年明けましておめでとうございます。

とは言っても、もう2月になってしまうんですが。ははは。うちの学校もいよいよ本格的なインターネット環境が整いつつあり、学生達もいろんな可能性を模索しているようで、ネットスケープが起動しない日はぜんぜんないという状態です。

楽しみながら、いろんな知識を吸収してくれる。

コンピュータミュージック科の講師陣としても学生達がインターネットを一つのきっかけに、アクティブな学習姿勢を作り出せるようになればと、淡い期待をよせています。

まあコンピュータだ、ネットワークだといっても、音楽みいたいな芸術を生み出すのは、人の「こころ」ですからね。もっともっと人間性を磨く教育が必要なんではなか。。。

今年もまた、いろんなイベントが目白押しですが、よろしくお祈りします。(見澤)

子供向けソフトの「SNOOPY YEARN 2 LEARN」を衝動買いした。その昔、このソフトのデモで、日本地図のジグソーパズルをはめ込むと「いわてけん」としゃべるのを見聞して、インターフェースとしてある種のカルチャーショックを受けたのを覚えている。永い間欲しかったのだが、1万円近い価格に躊躇し、予算がなかなかまわらずにいたが、今回、2480円で売っていたので決心し購入。うちの3才児がターゲット。

海外へ行くと必ずソフトウェアショップを探す。昨年、COTF訪問でアメリカに行ったときも、帰りにワシントンのショッピングモールで、どちらかという教育用ソフトのコーナーを見つけ立ち寄った。Mac用のソフトはあるのかと心配だったが、ほとんどはマルチメディアソフトでたいがいハイブリッド版であった。驚いたのはその価格である。だいたい20から30ドル。日本で1万円以上で売られているタイトルも多い。アメリカのように早く家庭に手軽な価格で教育用ソフトが手に入る時代が来て欲しい。(由水)

もうすぐ、さっぽろ雪まつり。札幌に住んで39年、また雪祭りの時期がやってきた。バーチャル雪祭り、バーチャル雪祭り新聞。来年は記念すべき50回です。そう、僕たちは、その未来の新しい時代の雪祭りを今、いち早く取り組もうとしているのです。学校のホームページ狩りが行われています。健全な高度情報通信社会づくりのために、今真剣に考えなければなりません。止めるのではなく、様子見でもなく、這ってでも前に進むのです。新しい時代は、いつの間にか出来ているのではなく、われわれ自身の手で作らさなければならぬのです。(武田)

教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部

1998年1月28日発行